

授業作り	重点	基礎・基本の定着を図るため、教員間で指導方法を共有したり、日頃の評価を生かした指導を行ったりする。授業では児童が既習内容を活用し、共に学び合うことを学びの原動力にして、自力で答えにたどり着けるようにするため、主体的・対話的な学習過程を大切にしていく。また、児童一人ひとりの実態や課題に即して、多様な学習形態を計画的に取り入れることにより、確かな学力を向上させる。
環境作り		教科担任制の特性を生かし、学団で多面的な児童理解に努め、学力向上のための授業改善を日常的に実施していく。学団でICT機器の具体的な活用の方法を検討するとともに、誰にも分かりやすく落ち着いて学習に取り組めて学んだことを共有できる環境を創り、児童が主体的に学習に参加できるようにしていく。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
第1学年		<ul style="list-style-type: none"> 文字を正しく書く力を身に付け、抵抗感なく書けるようにする。 人の前で、自分の考えが適切な声の大きさと発表できるようにする。 数に対する理解を確実にする。 鉛筆の持ち方や学習中の姿勢などの基本的な学習方法を身に付ける。 タブレット端末の基本操作ができるようになる。 8割の児童はひらがなや数字を正しく書く力を身に付けた。 数に対する理解を確実に算数は苦手意識が低い。 タブレット端末の基本操作はとても上手で、プログラミング、写真を撮る、作品を作る、意見を入れるなど、できることが増えた。 鉛筆の持ち方が独自のものになっている児童が多い。また、学習中の姿勢などが崩れがちな児童が多い。 授業中、自分の考えを発表できる児童は半数であり、決まった児童の発言で進みがちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の学習時間・機会の確保 発表の機会の確保と充実 具体物や数ブロックなどの半具体物の活用 デジタルドリルの活用 姿勢保持などの基本的な学習の指導の充実 タブレット端末の基本的な操作方法や管理方法の習得 漢字の学習が始まり、学習時間・機会の確実な確保 繰り上がり、繰り下がりなどの思考をブロックの具体物や図などの半具体物の活用 漢字や計算でデジタルドリルの活用 タブレット端末の基本的な操作方法や管理方法の習得の場面の設定 姿勢保持などの基本的な学習を受けられる態度についての声を掛け発表の機会の確保と方法の充実
第2学年		<ul style="list-style-type: none"> グループでの話し合いや、発表など、人前で話すことができるようにする。 自分の力で話を聞き、理解し、行動に移せるようにする。 文字を書く力や文章を書く力を身に付ける。 漢字を正しく書けるようにする。 計算は早く正確に答えが出せるようにする。 話し合いや発表などで、話型を提示したり話す人、聞く人の注意を確認したりして、少しずつ定着している。 一行日記、絵日記や作文など書く場面をできるだけ多くして、少しずつ書くことに慣れてき 	<ul style="list-style-type: none"> 話型の活用、話し合いや発表の工夫 話の内容の理解を深めるための説明の工夫 ノートの効果的な活用 日記等、書く場面の充実 漢字の定着 デジタルドリルの活用 継続した書く機会の設定

		<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字は毎日宿題に出し、継続することで書くことができるようになってきた。 漢字など文字を書くこと、計算することに個人差がかなり見られ、個別指導する時間があまりとれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 補習など個別指導する機会の設定
<p>第3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文学的文章を読み取る力が身に付いている。 漢字の字形を捉え、正確に書くことができる児童もいるが、十分にできていない児童も多い。 考えを伝えたり、友達の考えに対して質問したりする力が身に付いていない児童が多い。 ちよどの時間を基にして時刻や時間を計算することができる。 「数」「式による表現」について理解している児童もいるが、理解していない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の話を聞いて、理解することができない児童が多くいる。教師の指示を理解し、児童同士の充実した学び合いができるようにする。 漢字の習得に個人差がある。既習漢字の読み書きをデジタルドリルと書くドリルを活用し定着させる。 立式する際、図・言葉・式を用いて、説明することができる児童が多い。課題の発見と解決に向けて、学んでいけるようにする。 基本的な知識・技能の定着においては、個人差がかなり見られる。知識・技能の定着を図る。 「ひがと学びスタンダード」を活用して、基本的な話の聞き方を繰り返し指導した結果、少しずつ話の聞き方が上手になってきた。 漢字が苦手な児童でも、デジタルドリルと紙ドリルを併用した結果、楽しく学ぶことができた。 算数では、児童同士が考えを交流する時間の設定や解決の見通しをもたせるための視覚的支援を行った結果、すすんで課題解決に取り組む児童が増えた。 式による表現について理解できていない児童や基本的な知識・技能の定着が十分ではない児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に考えや意見を伝える話型の活用 話を落ち着いて聞く態度の育成 朝学習におけるタブレット端末の活用 児童同士で考えを交流する時間の設定 児童に解決の見通しをもたせる課題提示の工夫 学習の振り返りの場面の位置付けデジタルドリルの活用 「ひがと学びスタンダード」の継続した活用 デジタルドリルの課題を設定 友達との交流を通しての学習の定着
<p>第4学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最後まで話を聞く力を向上させる必要がある。 説明文や文学的文章の読みや書く力を身に付ける必要がある。 漢字練習は宿題を中心に行い、文字の習得が進んでいる。 説明文の単元では、図書室にある本を活用し、主体的に学習できている。 算数では、基本的な知識・技能が身に付いている。 学んだことを応用して計算する力は、練習を積んで伸ばしていく必要がある。 自分が苦手とする分野を把握し、自ら課題解決に取り組めるようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容を落とさずに、興味をもって聞くことができるようにする。 自分の考えや思いを、順序立てて分かりやすく伝えることができるようにする。 既習の漢字を適切に使い、自分の考えを文章に表すことができるようにする。 デジタルドリルなどタブレット端末を活用し、個に応じた課題ができるようにする。 既習の知識や技能から発展させて、新しい学習に生かすことができるようにする。 伝え合うことを楽しみ、自分と違った考えに興味をもって聞いたり、その考えのよさを自分の考えに生かしたりできるようにする。 学習に苦手意識のある児童も、デジタルドリルを活用することで少しずつ定着できている。 発表する機会を増やして経験を積んだことで、自信をもって発言できる児童が増えてきた。友達のよい発表を参考に、次の学習の意欲をもつこともできている。 話し合いや意見交流の場を多く設けたことで、自分の考えや思いを、分かりやすく伝えられるようになってきた。 タイピング練習を継続して行ったことで、タイピングの速度が上がり、スムーズな学習へとつなが 	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律、「聴く」姿勢の指導 発表の機会の確保と充実 ノートに自分の考えを書く場面の設定 作文の書き方の基礎・基本の指導の工夫 説明文の指導の充実 要約文を書く場面の設定 話し合い・意見交流の充実 タイピング力の向上と定着 タブレット端末を活用した自己表現の積み重ね デジタルドリルと紙ドリルを効果的な併用 学習のゴール及び活動の目的の提示 発表の機会の確保と充実 タブレットの活用及びルール徹底の指導

		<p>った。タブレットを活用して共同編集するなど、学習の幅も広がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かけ算や繰り上がり・繰り下りの習得が不十分で、わり算でつまずき、自信をなくしてしまう児童がみられる。 ・ 学習定着度の差が広がってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルドリルを活用した学びの積み上げ
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「書く」ことの領域で記述式や応用問題についての力を向上させる必要がある。 ・ 語彙の習得や活用の基礎・基本を見直し定着させていく必要がある。 ・ 物語文の、登場人物の気持ちを読み取る力を向上させる必要がある。 ・ 数と計算や図形の領域の理解を深める必要がある。 ・ 全ての児童が理解できるよう、児童一人ひとりの学びに向かう力を向上させる必要がある。 ・ 自分の苦手な分野を意識して取り組めるようになった。 ・ 長期的記憶や理解が定着するようにタブレット端末の問題を活用し、確かな学力の定着を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の規律を確認し、話を聞くことの習慣付けを通して活動内容や課題に対しての理解へつなげる。 ・ 漢字スキル、ノート練習、デジタルドリル、小テストなどのスモールステップで、新出漢字の定着を図る。 ・ 語彙を増やし、自分の考えを文章で表現できることを目指す。 ・ 基本的な計算技能を身に付けることを目指す。 ・ 理解度、定着度の差が大きいので、底上げを図る必要がある。 ・ 短時間でも継続的に取り組み、学習意欲の向上を図る。 ・ 週に1回以上、読み聞かせをした。本に触れる機会を増やしたことで、自発的に読書をする児童が増えた。 ・ 毎日、計算技能を身に付けるための計算スキルやデジタルドリルの課題を出したことによって、小数のわり算やかけ算の技能が身に付いてきた。 ・ 個に応じた学習内容を選択できるようにしたことで、文章問題を苦手とする児童も文章を読む習慣が身に付いてきたように感じる。 ・ 国語や外国語の学習で辞書や英和辞典を使用した。しかし辞書の使い方が身に付いていない児童がいたり、インターネット上にある正しいのか分からない情報を活用していたりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話を聞くことの指導の充実 ・ 登場人物の心情によりそのような発問の工夫の充実 ・ デジタルドリルの活用 ・ 図書室での学習や昼の時間など、読書の機会の設定 ・ 辞書を用いて語句を調べる活動の充実 ・ 協働学習支援ツールを活用した文章を書く活動の充実 ・ 宿題で100マス計算や簡単な四則演算の問題を短時間で集中して解く場面の設定 ・ 個に応じた指導の工夫の充実 ・ 落ち着いて読書ができるような環境整備 ・ 家庭学習におけるデジタルドリルの継続した活用 ・ 個に応じた学習時間の確保 ・ 丁寧な学習の振り返りおよび情報モラル教育の充実
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文学的な文章を読み取り、登場人物の心情を想像したり、情景描写などの優れた表現を見付けたりすることができる。 ・ 話の要点を落とさずに聞く力を身に付ける必要がある。 ・ 説明的な文章を読み取る力を身に付ける必要がある。 ・ 自分の考えを文章で表現する力を身に付ける必要がある。 ・ 漢字の読み方や書き方を身に付ける必要がある。 ・ 四則演算の基礎、基本技能を身に付ける必要がある。 ・ 文章を読んで問題場面を理解し、必要な数や数量を読み取る力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しく漢字を書いたり、既習の漢字を適切に使って文章を書いたりできるようにする。 ・ 順序立てて話したり、要点を押さえて聞いたりすることができるようにする。 ・ 語彙の習得数を多くして、活用できるようにする。 ・ 文章構造について理解し、適切に文章に書き、表現できるよう、5W1Hを意識した書き方を指導する。また、論理的な思考を、文章で表現できるようにする。 ・ 学習内容の定着度の個人差が大きいので、底上げを図る必要がある。 ・ 題意を正確に読み取る力を身に付けさせる。 ・ 時間、長さ、かさ、重さ等の量感をイメージして考える力を身に付けさせる。 ・ 課題解決の方法を考え、文章や図で表現できるようにする。 ・ デジタルドリルを活用する機会を多く作れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルドリルの活用 ・ 話型の指導や、話の聴き方を指導の充実 ・ 文章を書く機会の充実 ・ レディネステストを活用した児童の実態を把握する機会の設定 ・ 個に応じた問題を設定することによる基礎・基本の定着 ・ 学習の定着度を把握する機会の設定 ・ 問題場面を具体的に捉えさせ、学習したことを応用する場面の設定 ・ 具体的な物を操作により具体的なイメージをもって考える場面の設定 ・ 数直線や図等に表し、解決させる指導を繰り返す場面の設定 ・ 家庭学習でのデジタルドリルを継続した活用

		<ul style="list-style-type: none"> 数直線や図等に表示、解決させる指導を繰り返し行うことで、定着が見られた。 読書の機会を増やし、興味を高めた児童が見られた。 学習の定着度を把握する機会が少なく、復習の時間を十分に取ることができずに次の単元に進むことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 本に親しむ活動の継続 デジタルドリルを活用した定着度の確認および個に合わせた指導の充実
<p style="text-align: center;">特別支援</p>		<ul style="list-style-type: none"> 学習の基礎・基本の定着に個人差がある。また、生活場面の中で、学んだことを応用することが苦手な児童がいるため、児童の実態に合わせた指導・支援を行い、学習で学んだことを生活場面で活用していく力を身に付けさせる。 コミュニケーションに支援が必要な児童がいるため、話したり、聞いたりする力や、一対一の対話や交流を通して、ソーシャルスキルを身に付け、コミュニケーションをスムーズに取れるようにする。 ICT機器の機能や紙などを児童の実態に合わせて使用することにより、学習に積極的に取り組む姿が見られた。 行事を軸に、時刻を求めたり文章を読み取ったりすることで、実際に校外学習などで見通しをもって取り組めた。また、自らしおを確認する児童も増えた。 教員が使っている手話を真似して相手に話そうとしたり、相手に合わせた話し方を選んだりする姿が見られた。 学習の定着度に個人差が大幅にあり、単元が長くなったり、定着する前に次の単元へと進んでしまったりすることがある。 相手の意見を受け入れたり、会話をしようとしていくことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語や算数などで学んだことを、生活場面を想定した学習活動に生かし、実践的に学ぶ機会を設定 実態に合わせた学習のグループを編成の工夫 タブレット端末やICT機器の活用 学級内たてわり班活動、異学年交流など、意図的に関わる機会の充実 手話や記号などの多様なコミュニケーションの実践 児童の特性を生かした教材の検討と精査の継続 児童が身近に感じるものの活用 手話や多様なコミュニケーションの日常化 ドリルパークの活用した学習内容の定着確認 相手の話を聞く時のポイントの指導および支援

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立東戸山小学校

- ☒ 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 学校は活用の際して、IDやパスワードについて保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 児童及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- ☒ 学校は児童が授業や家庭学習においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- ☒ 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- ☒ 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を児童に与えている。
- ☒ 担任等がデジタルドリルを活用し、児童一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

- ・日頃から話し合い活動を行っており、話すことや聞くことが少しずつ身に付いてきている。漢字練習は宿題を中心に、文字の習得が進んだ。また、デジタルドリルを活用した漢字練習や文章の読み取りを行っている。説明文の単元では、図書室にある本を活用し、主体的に学習できるようになった。
- ・漢字の読み書きのテストは習慣が付き、より良い点数を取ろうと努力する児童の姿が増えた。また、説明文から読み取ったことに感想をもつことができるようになった。

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

- ・放課後は、国語・算数を中心に予習・復習の学習をデジタルドリルで取り組む。児童自らの苦手な単元や学習内容を把握し、今後の学習や家庭学習に活かしていく。
- ・高学年は下学年からの漢字の復習に年間を通して取り組む。定着度の低い中学年の漢字は、配信する課題に繰り返し取り組めるようにする。
- ・家庭学習における課題として、デジタルドリルを毎日積極的に全学年で活用していく。課題としてデジタルドリルを毎日配信し、繰り返し取り組むことで、知識の定着を図る。